

令和7年度2学期始業式

8月29日(金) 令和7年度第2学期始業式を行いました。今年も猛暑が続きました。まだ暑い日が続いています。夏季休業中、生徒の事故等の報告は受けていません。元気よく登校しています。始業式では以下の話をしました。2学期もよろしくお願いします。

今日から令和7年度の2学期がスタートします。大きく2点お話をします。

1点目は、各種テストの結果についてです。4月に行った「全国標準学力検査」です。2、3年生は全国の標準とされる50を上回っています。2年生の社会、数学、理科、3年生の社会、理科、英語が昨年度より上がりました。中学校の学習内容は学年が進むごとに難しくなり、この検査で前年度の数字を上回るとは難しいと言われている中、このような結果になったことは素晴らしいと言えます。

そして3年生が受けた全国学力・学習状況調査についてです。国語、数学、理科の3教科でした。国語は全国をわずかに下回りましたが、県平均と同等です。数学、理科は全国及び県平均を上回りました。県の教育委員会の報道発表では、県平均は3教科とも全校平均を下回ったとされています。当校の生徒はとても頑張っていると言えます。

2つのテストの詳細は後日お知らせしたいと思います。

もう1点は、校門のところが大きく姿を変えました。校舎側を背にして向かって右側の家なくなり、校門の石碑が移動しています。

解体した家は現在どなたも住んでいない空き家でした。学校から国道に出る際には、特に右側の家や塀が視界を遮り、とても見にくい状況でした。学校も地域の皆さまも何とかならないかと訴えてきました。昨年度は国道の反対側、日産自動車さんの歩道にカーブミラーを設置しました。カーブミラーの設置費用は皆さんの地域の応援団「互親会」から出してもらいました。



今回、互親会の皆さまの働きかけとご支援により、空き家を解体して、更地にしました。実は家を解体して、土地を平らにするには、とてもたくさんのお金が必要です。普通自動車1台が簡単に買えるくらいの費用です。それを互親会が担ってくれました。今後、学校の土地として駐車場等、有効活用していきます。また、生徒玄関前に残されていた木の切り株も撤去して、平らに整地してくれました。

私たちはこの熱い地域の皆さまに支えられて教育活動を行っています。私たちとしては感謝しかありません。地域の皆さまに報いるためには、今頑張っていることを一生懸命に継続してやることです。そして、あせまみれ運動を確実に実践することです。その伝統を守り抜き、新たな取組にも挑戦していく、それが1学期の終業式で話した「不易と流行」のことにつながります。2学期も1学期同様、素晴らしい活躍を期待しています。

まだ、残暑厳しい状況です。13日に体育祭を控えています。今年も熱中症対策を徹底し、実施します。今年も地域交流種目を行います。昨年度の成果と課題を踏まえ、さらに一步踏み出した内容になっています。私たちとしては、受け身ではなく、積極的に地域に働きかけ、連携を深める必要があります。体育祭の地域交流種目は大切な働きかけの一つです。是非、これからの練習や準備をとおして、中条中学校の生徒のパワーを地域に披露してください。

新潟県が進める「社会性の育成」

2学期はたくさんの学校行事が予定されています。体育祭は昨年度よりも1週遅らせる形で行います。今準備も真っ只中です。今年も心配されるのは熱中症対策です。万全を期すように努めていきます。

体育祭などの行事の場面では、「自己有用感」を高めるチャンスです。「自己有用感」は、県が推進する「社会性」の一つです。県の教育振興基本計画にも盛り込まれており、県内のすべての学校で取り組まなければなりません。特に当校のような小規模校では、関わる人間が固定的になりがちで、様々な取組を通して「社会性の育成」を推進することが、大きな教育課題の一つだと考えています。今回は「社会性」について触れます。

「新潟県教育振興基本計画」の基本方針Ⅲ「児童生徒が安全に安心して学べる学校づくり」の「1 いじめ防止等の取組」の中で以下のように述べられています。

現状と課題

いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題の背景の一つには、児童生徒の**社会性の欠如**があるとされています。本県においては、児童生徒に身に付けてもらいたい**社会性**として

「自己有用感」
「人間関係づくりの能力」
「規範意識」
「困難に対して、他者と協力しながら問題解決を図る意欲や態度」



を掲げています。教育活動全体を通じて児童生徒の社会性を育成するとともに、家庭や地域との連携を強化し、いじめをしない、見逃さない、許さない意識の醸成に努める必要があります。

県が示す具体的な取組として

<主として学校で取り組むこと>

- 小中学校の9年間を見通して社会性をはぐくむ教育を行います。
 - ・ 発達段階に応じた社会的スキルの育成
 - ・ 豊かな体験活動、異年齢の交流の実施
 - ・ かかわり合って学ぶ授業づくり など
- 「いじめ見逃しゼロスクール運動」を柱に、いじめのない学校づくりを進めます。
- 不登校にならないよう、欠席初期（1日目・2日目・3日目）の対応を大切に、「子どもと共に1・2・3運動」を行います。



<主として学校・家庭・地域社会が連携して取り組むこと>

- ふれあいを通して、仲間や家族、地域との絆を深める活動を実践します。
 - ・ 学校に通う人やそれ以外の多くの人とあいさつを交わす（あいさつ運動）
 - ・ お客様に対する案内や困っている人を手伝う（ボランティア体験）
 - ・ お年寄りなどから昔の暮らしの様子を教えてもらう（世代間の交流）
 - ・ 家族が今まで以上に会話を増やす（ノテレビ・ノゲームデー、家族そろって夕食デー）
 - ・ 家族と一緒に新しいことに挑戦する（健康づくり、家族チャレンジデー）
 - ・ 暮らしやすい地域をつくる（美化・栽培活動）

これらの取組は、学校での取組とともに家庭や地域との取組が重要です。たとえば、異年齢交流や地域とのふれあいの観点から、体育祭における地域交流種目はとても大切な場面です。学校運営協議会の場面でも昨年度の成果と課題を踏まえ、今年度の種目について熟議を行いました。当日がとても楽しみです。

当校の生徒の社会性がどうであるか、次号以降で、「全国学力・学習状況調査」の質問紙調査の結果を紹介します。